

目指す学校像	学校・家庭・地域のコミュニケーションをもとに、児童一人ひとりの学力や体力を向上させ豊かな心を育むことができる学校
--------	--

重点目標	1 学校課題研修の充実と全国学力・学習状況調査の教育データを利活用した教育支援の充実 2 安心・安全な学校生活の実現 3 保護者、地域への情報発信とコミュニティ・スクールの推進・充実 4 Well-being (一人ひとりの多様な幸せ) の実現に必要な教職員の指導力の育成
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年2月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	(現状) ○児童の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の必要性について、教員間で共通認識を図っている。 ○指導者を招聘しての研究授業と協議会を今年度も計画している。 ○全国学力・学習状況調査の状況はおおむね全国の平均点程度である。 (課題) ○「個別最適な学び」の児童への支援方法について、まだまだ深める必要がある。 ○全国学力・学習状況調査において無答率が高い状況がある。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実	①指導主事を招聘して、個別最適な学びについて研修する機会を設ける。 ②学校課題研修で年間3本の授業研究会を実施し、協議会での成果と課題を追究し日々の授業に生かす。	①学校評価に関わる教職員アンケートについて「確かな学力の向上が図られている」と回答する教職員の割合が77%、「学校課題研修を通して、授業力を向上させることができた」と回答する教職員の割合が97%となったか。					
		・全国学力・学習状況調査の教育データの利活用による学力向上	①全国学力・学習状況調査の児童への事前指導 ②全国学力・学習状況調査の振り返りの実施 ③全国学力・学習状況調査の結果分析	①令和5年度と比較して無答率を0.1ポイント改善する。 ②全国学力・学習状況調査の全国平均を上回る。					
2	(現状) ○いじめ解決にむけ、積極的にいじめの認知を行っている。いじめ対策委員会を開催し、いじめ問題に対応している。 ○いじめの対応についてはさいたま市教育委員会から出されている「いじめに係る対応」、本校の「学校いじめ防止基本方針」の手引きをもとに組織的に行っている。 ○安全点検では毎月2、3件の不良箇所が見つかっている。 (課題) ○いじめの初期対応の重要性を職員全員が更に意識して進める必要がある。 ○保護者からの相談でいじめが発覚することがあるので、これまで以上にいじめへのアンテナを高くする。 ○安全点検では児童の目線での危険箇所の見出しを今後も続ける必要がある。	・いじめに係る組織的な対応の実施	①心と生活のアンケート・本校独自アンケートを計5回実施し結果に基づいて迅速に対応する。 ②いじめ対策委員会での記録と全職員の共通理解を図る。 ③「嫌な気持ち、悲しい気持ちで帰らない」を呼びかけ、いじめの早期発見、解決を図る。	①学校評価に関わる保護者アンケートにおいて、『お子さんに「いじめ」はなく、友達と仲よく過ごしている』と回答する児童の割合が94%以上となったか。 ②③いじめの解決が100%となったか。年度をまたぐ案件は「見守り中」になったか。					
		・安全指導と安心安全な環境整備の提供	①通学班班長指導(学期に1回)、生活朝会の折に全国交通安全指導(学期に2回)、避難訓練(学期に1回)をそれぞれ実施する。 ②安全点検を月1回実施し、点検状況を管理職が把握し対応する。校庭の遊具は毎日点検する。	①学校評価に関わる教職員並びに保護者アンケートについて「学校は環境整備の改善に努力している」と回答する教職員、保護者の割合がそれぞれ88%、90%となったか。 ②校庭の遊具は毎日点検したか。					
3	(現状) ○学校運営協議会を卒業生のほぼ全員が進学する三橋中学校と共同で開催し、情報共有を図っていく。 ○児童のあいさつについては、よい状況であると思われる。 ○授業参観は計画どおり年間3回実施し、7月と12月の懇談会は参集でなく、資料や動画で学校の様子を提供する予定である。 (課題) ○学校と地域との連携についての課題を解決することを最優先とする。 ○防犯ボランティアに対する教員・保護者等のあいさつ、感謝の気持ちの醸成が課題である。	・迅速・丁寧な情報発信	①その日起こったことはその日のうちに保護者に連絡し、課題解決に向け保護者と連携する。 ②保護者、地域には可能な限り学校安心メールを活用して情報の発信を行う。	①学校自己評価における保護者アンケートで、「学校は保護者の方へ、親切・迅速・丁寧に対応している」と回答する保護者の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価における保護者アンケートで、「学校は保護者に対して、各種たよりやHPを通して情報をよく発信している」保護者の割合が89%以上となったか。					
		・保護者、地域のより一層の学校への協力	①学校の課題、学校を取り巻く地域の課題について、学校運営協議会で熟議を行う。 ②特に「あいさつ」、「ボランティアに対する感謝の気持ちの醸成」について熟議を行う	①学校運営協議会の熟議のテーマである「あいさつ」についての学校運営協議会委員の肯定的評価が90%以上となったか。					
4	(現状) ○ICTの活用について、学年のICT担当者(エバンジェリスト)を中心に研修を進めている。 ○担任・教科担当として必要なスキルを学ぶ体制については整っている。 ○スクール・ダッシュボードについては、原則毎日取り組んでいる。 (課題) ○スクール・ダッシュボードが分析する児童の心身の健康状態についての活用法を全校で協議していく必要がある。 ○経験の浅い教員が増え、指導スキルの共有・共通化が必要である。定期的なOJTの研修の必要	・ICT機器の効果的な活用	①ICT機器の学年研修会をエバンジェリストが中心に週1回実施する。 ②スクール・ダッシュボードが分析する児童の心身の健康状態について、学年会で共有する。 ③スクール・ダッシュボードの活用については全体研修会で研修を行う。 ④管理職による年間1回の授業参観を実施し、その後の個別指導を行う。	①学校評価に関わる教職員アンケートにおいて、「ICTの活用や学校課題研修をととして、指導法の工夫や改善が行われている」と回答する教職員の割合が99%以上となったか。 ②「先生は工夫して授業をわかりやすく教えてくれる」と回答する児童の割合が97%以上となったか。					

	がある。								
--	------	--	--	--	--	--	--	--	--